

活動記録「平林寺境内林の紅葉を訪ねる」

- 実施日時 2021年11月18日(木) 午前9時40分～12時40分頃
- 参加者 22名(男9名、女13名)

はじめに

にわか雨が予報された中、時として恵みの陽射しが得られた‘’散策日和‘’。

年間活動予定日11月18日歴男・歴女たちが平林寺境内林を訪れた。埼玉県
の紅葉名所の武蔵野の名刹平林寺を楽しみました。

- 集合 西武池袋線ひばりヶ丘駅北口駅前広場 午前9時40分
- コース 西武バス「ひばりヶ丘駅北口」バス停より乗車9時54分発⇒
バス停「新座総合体育館入口」下車 ⇒隅屋敷橋⇒ 平林寺堀⇒
⇒伊豆殿橋(野火止用水)⇒平林寺総門【平林寺境内見学】
⇒山門・仏殿・大河内松平家廟所⇒野火止塚⇒平林寺境内林⇒
⇒半僧坊感応殿 ⇒睡足軒 12時40分頃解散 ⇒
⇒個別に近隣の食事処あるいはバス等で駅へ移動
- 費用 平林寺拝観料 500円 その他交通費あり

●食事 設定なし（3密を避けるため全体での食事会はなし）

●担当 大館 徹、黛 雅昭、茂出木正和

●記録 【出典 平林寺 HP、にいざガイドマップ、平林寺縁起】

「平林寺堀」 本年4月15日第3回野火止用水散策の折に見学した野火止用水碑・用水分岐点から平林寺境内へ分水されたもの。

産業道路では道路下に暗渠で、関越自動車道では懸樋で横断している。隅屋敷橋から平林寺堀へ沿った築堤の小径は昔ながらの風情を感じられた。

「平林寺」 永和元年（1375）武蔵国岩槻に創建、現在臨済宗妙心寺派禅寺。寛文3年（1663）岩槻から松平伊豆守信綱の遺命により移された。寺域は約13万坪で、山門や仏殿などの建造物群は県指定の文化財。

明治37年禅修行専門道場である平林僧堂が開単された。関東を代表する妙心寺派の僧堂として全国各地から集まった僧侶が修行に励んでいる。境内林は修行環境を守るため保護されたもの。

総門には江戸時代初期の石川丈山の山号扁額【金鳳山きんぼうざん】、山門には扁額【凌霄閣りょうしょうかく】がある。山門は岩槻から移築された築350年の平林寺のシンボルである。

仏殿では本尊を垣間見ることができ、扁額は江戸時代中期の書家三井親和の揮毫【無形元寂寥むけいもとせきりょう】がある。

「松平信綱夫妻の墓、大河内松平家廟所」 平林寺は信綱をはじめとする大河内松平家の菩提所、約3千坪の墓域がある。

信綱は将軍家光の信任が厚く智慧伊豆と称され、幕府の筆頭老中を勤めた。

玉川上水・野火止用水開削や島原・天草の一揆平定、明暦の大火処理、川越藩主、優れた治世を数多く行う。

会員より松平信綱の詳しい説明がありました。

境内の墓所には卵塔【修行半ばにしてこの世を去った修行僧らの墓】、

島原・天草の一揆供養塔【一揆200年遠忌の建立、幕府側の犠牲者を弔う】

松永安左エ門の墓【電力王、実業家、松永耳庵として近代三茶人】

安松金右衛門の墓【玉川上水、野火止用水の開削に貢献、信綱の重臣、新田開発にも携わる】等々がある

参加した歴男・歴女はそのひとつひとつに興味深くお詣りすることができた。

「平林寺半僧坊大祭」 半僧坊とは鴉天狗に似た守り神で、浜松の方広寺が起源。平林寺境内の半僧坊感應殿にも半僧坊が祀られ、鎌倉建長寺と合わせて三大半僧坊とされている。

平林寺半僧坊大祭は毎年4月17日に稚児や僧侶による華やかなお練り（祭礼行列）の後、半僧祈祷法要が営まれる。

過去に大祭に参列した会員から平林寺僧坊大祭の様子が聞くことができた。

「平林寺境内林」 国の天然記念物に指定され保護されている。約 43ha ある境内林はアカマツ林やコナラ・クヌギ林などで形成され、エゴノキ・クマシデ・クリなどの高木も多くある。また県内平野部屈指の鳥類生息地で、カケス・アカハラ・アオゲラ・オオタカなど 60 種類以上の野鳥の姿が見られる。全山錦繡の紅葉狩りとはならなかったが、秋のひと時見事な秋の自然を満喫することができた。

「睡足軒すいそくけんの森」 かつて高崎藩の陣屋が敷かれていたところ。平林寺向かいの雑木林を主とした園庭。実業家松永安左エ門の別邸だった、建物は飛騨高山周辺に建てられた江戸後期の民家と推定され、昭和 13 年に移築された。茶人松永耳庵はこれを草庵として親しい友人を招き田舎家の茶を楽しんだ。

昭和 4 年（1929）入間郡柳瀬村（現 所沢市）に柳瀬荘を造営し始める、中心的な建物が【黄林閣 国の重要文化財】です。

参加者は清流と緑多い清々しい自然の中、歴史ある武蔵野の地で、ゆったりとした散策を楽しむことができた。無事終わることができ感謝いたします。帰路男 4 名は東久留米の蕎麦屋で美味しい蕎麦を食べました。